大電職工の馘首から 又赤目を釣り合ふ

西尾東兩氏宮崎氏と會見 交渉斷絶裡に引揚ぐ

10.5.22 大朝

友愛會の西尾東兩氏は二十日紀念日で全員骨休めの大電を訪ふた巨きな建物もヒツソリ閑として居るが夫でも宮崎社長は休みもせず出社して後始末に頭を捻つてゐた西尾東兩氏は馘首者は大電に裏切つた者のみで無く復職者の中よりも出して貰ひたいと切り出すと宮崎社長はそれは不可ぬ馘首者は勿論會社の爲に不利を圖つた側から詮衡するとれは困ると當惑顏をする然らば會社でも相當に措置すると逆襲すると兩人は頭を捻りながらそれは不可ぬ其麼區別を設けて貰つては困るといふ宮崎氏は然らば名簿を渡すから君の方で詮衡して貰ひたい然らば野外演説も馘首を行ひ總てが片附いてからにして貰ひたいと鉾先を轉ずると兩氏はそれは出來ないと拒絶した宮崎氏は毛色を變へて演説員の詮衡を頼めば夫も出來ず演説會の延期を頼んでも同斷だとすれば君等は餘りに得手勝手である會社側は隨分君方に讓歩をしてゐる本來君達は餘りに干渉爲過ぎるのを限り君達▲この交渉は斷つてしまひたいとムキになり交渉斷絶裡に兩氏は引揚げた這ン麼譯で事復又面倒になつて來た

男盛り女盛り 戀愛武勇號

是大當り!! 保此他空前の傑作揃ひ 素敵な評判! 講談倶樂部六月増刊

大電爭議の結末

馘首職工百五十名 待命八十九名=轉勤八十三名 辭令は書留郵便で發送

10.5.22. 大朝

大電職工三百八十二名中六十名は既に復職して居るが殘り三百二十二名に對しては如何なる處置を採るべきかと廿日大電本社に課長會議を開いたが結局轉勤者八十三名待命者八十九名馘首者百五十名と定め同夜十二時夫々辭令と共に通知書を書留郵便で發送した、馘首者百五十名に對しては新規定に依る給料並に手當の外に特別手當として什圓宛を支給した馘首の理由(右)

關する示達を爲し其日から就業させることに極めた

一、安治川、春日出兩發電所の發電量減少に依る冗員淘汰

二、修繕工事を全部發電所にて行ふ爲め從來の修繕所事業一部縮少の爲め冗員淘汰

であること

待命者八十九名に對しては部署の定まるまで從前通り給料を支給して其通知を待たしめる事とした而して今回の淘汰に依る退職手當總額は二萬四千六十二圓退職料總額は三千七百五十圓であると尚復職者に對する通知書中に「此際依願解雇者に對しては此度會社の都合に依り解雇するものと同樣の方法に依る給與金を支給可致候に付右依願解雇希望者は來る廿三日迄に申出相成度其の後は同一の取扱を不致候」との追而書があつたに就いて職工側では會社が何等か劃策する事があるに違ひないと憤つて居る向もあるが萩原庶務課長は

之れは決して會社が彼等を脅威するのではない此際依願解雇を望んでる者もあるらしいので其人も復職して更らに退社を願出た際には手當も三分の一に減ずるが故に其不利な處つて斯くしたのである

と語つて居た、復職者に對しては廿二日午前九時本社で勤務に

大電馘首は三分の一位か 爭議再燃せば

今度は公然と協調會も 掛合ふと歸東に際し武藤氏語る

10.5.22. 朝日

大電勞働争議發生と同時に來阪した武藤勞資協調會調査課長は同じてその成行きを調査中であつた問題一先づ小康を得たので十九日夜歸京する事となつた出發に際して同氏は語る

一 勞働争議としては可成り意義を有する争ひであつた丈けそれ丈け第三者の吾々にも好個の經驗を與へて呉れて自分は最初から單にその成行きを傍觀して材料としてゐたのであるのは勿論であるが然し最後の二三日は改んで聖つとその内部に立入つて見た

然るに昨夜(十八日)に買つた[illegible]が無駄になつて仕舞つたやうな結果を見たが更に[illegible]側が廿一日迄從順して待つと云ふも

會社側もこの三日間は出勤したと同樣給料を支拂ふと云つているその上會社の意嚮は職工全部を解職すると云ふのでなくその一部分、サア先づ三百八十名の三分の一前後であらうと思ふ

自分は愈よ今夜歸京するが若し大電がこの上勞働者側に沒義道な事をやるやうなら直ぐ飛んで來て今度は公に勞資協調會として掛合ふ覺悟……

然し今度の問題はこの儘無事解決するであらうと思ふ

金剛杵

投書歡迎

大電の結末一面觀

10.5.24 大朝

流行の指導者論

◇友愛會の西尾君語つて曰く知識階級たる争議の結末には筋の通つた理窟が立ち指導者の面目を傷けない解決が付かないと承知しないので、却つて無理なごまかしになり易い、恰も京都の與村商會に於ける爭議の失敗の如きであるが、勞働者が直接その衝に當ると理窟なんか拔きにして、實益を飽く迄追及する

◇今度の大電爭議も尾大振はずの觀があるが得らるべきものは殘りなく得て結末を付けたさにかく大電問題が資本家社會に與へた警告は餘程印象の深いものであつた事は否めない。我等は最後の勝利を得る時まではかゝる効果を以て滿足するより外はないのださ。

◇成程今度の爭議はほとんど知識階級の助力を借りなかつたが、資本家側の往生際の惡かつたのに比して、勞側者側は充分餘力を存しながら、あつさり結末を付けた。

◇これは知識階級が指導する東京方面の友愛會のやり口であるが、西尾君の今後の態度は廝生君などにそつくりだと云つて好い。もう知識階級出身の人々も勞働者出身の人々も差別がつかなくなつて來たと云ふのが眞相となすべきではあるまいか

(白路生)